

コムライン掃除に学ぶ会

愛知県

山口 やまぐち

敦夫 あつお



私は、外食のお店「コムライン」に勤めており、「コムライン掃除に学ぶ会」で活動しています。それは、新美文二社長が1993年の第一回日本を美しくする会に、参加したことが始まりです。

新美はその後、「西三河掃除に学ぶ会」の発足に合流しました。一人で参加し、10年経っても社員の参加はなかったそうです。

新美は、鍵山相談役の「10年偉大なり、20年畏るべし、30年歴史になる」の言葉に励まされて続ける一方、社内で活動できることを夢見ていたそうです。

飲食店では土日の参加は難しいのですが、それでも日本を美しくする会の活動に参加した社員が、「掃除はとても良かった」と社内でも伝えたことで、家庭や地域、職場で掃除してはどうかという気運ができてきました。

あるとき、社長が「会社として何かやりたいな」と提案すると、社員から「掃除に学ぶ会」を始めようという声が上ががり、

2016年「コムライン掃除に学ぶ会」が始まりました。毎月店舗を選び、店長とスタッフら20〜30人で月に5〜6回やり、200回を超えました。

私は今総務部でサポートする立場ですが、その前は営業での連日の多忙と過労により、一時他業務に変えていただいたことがありました。そんなときの15年前、掃除に出会いました。

掃除をすると自分が軽くなることに気づきました。仕事が片付くのです。倉庫を掃除すると、皆にとっても感謝されるのです。そのうち、私は前の業務に戻り、仕事と掃除を両立していました。倉庫掃除は10年目、今後も掃除を続けます。

(459-8001愛知県名古屋市長区大高町字中川55)

トイレ掃除で「仲間」になつた学年集団

滋賀県

吉田

武史



私が学年主任をした10年ほど前のことです。本校は、生徒が進学や就職などのコースに分かれます。何とか学年集団としてまとめることはできないか、と考えついたのがトイレ掃除です。「トイレ掃除をしっかりやることにします」と言うだけでは、単なる念仏にす

ぎません。まずは率先垂範、そう決めました。

如何にスタートするか？ 時間がなかったので、最初は校則違反のペナルティとして参加させました。集まったのはいわゆる問題児といわれる生徒ばかり、教室掃除すらサボってしまうような生徒です。

でも、私が便器に向かうと彼らもシブシブ向かい出しました。そして一緒にいろいろな話をしました。友だちのこと、家庭のこと、不安に思っていること…。驚くほど彼らは素直に話してくれるのです。これぞ「掃除の力」だと思います。

何回目からか、嬉しそうな顔をしてトイレの前で待つ彼らの姿がありました。そしてまた便器を磨き

ながらいろいろな話をするのです。

そうするうちに、ペナルティにしくなくても生徒が集まり出し、参加した生徒はみな仲良くなり、「仲間」になりました。コースに關係なく、こんなに仲良く一つになった学年は初めてでした。

先日、私と一番よくトイレ掃除をした(＝問題児、笑)当時の卒業生が訪ねて来てくれました。彼女は今、保育士をしています。残念ながら私は会議中で会うことが戻ってくると私の机の上に一枚のメモが置いてありました。

「先生、園のトイレ掃除、頑張つてやっています！」

涙が出ました。私の宝物です。

(522-0052 滋賀県彦根市長曽根南町266番地13)

尊いのは足の裏である

京都府

小笹^{おざさ}

大道^{ひろみち}



鍵山相談役を知ったのは、著書『日々これ掃除』を読んだことだった。食器洗いや雑巾がけは子どもの役割であり、そんな家庭で育つたため、掃除や手伝いの大切さは身をもって感じていた。

しかし教師になって掃除の指導

はうまくいかず、強い言葉で抑え込もうとしていた。当然学級経営もうまくいかず、そんなときに同僚先生に紹介されたのが『日々これ掃除』であった。良樹細根、3つの幸せ、攀念智など、その衝撃は今もよく覚えている。何よりも、人にばかりやらせて自分は掃除をしていなかった。

鍵山相談役との出会いは、2014年京都での鍵山教師塾だった。会場に着くと、すでに地面にはいつくばって掃除をされている方がいた。鍵山相談役であった。

文字ではわからない、感性でしかわかり得ないものを感じた。また会場が番組小学校の一つであり、京都で生まれ育った者として、先人に対する誇りと責任を感じた時間でもあった。私はそこで

感化され、同年11月「京都山城便教会」をスタートさせた。

運営して一番の気づきは、道具の準備と管理の大変さであった。それまでも掃除の会に参加していたが、用意された道具で掃除をして満足していた自分が恥ずかしくなった。

坂村真民先生の「尊いのは足の裏である」という作品がある。表に見えない、そして汚いところにもいつも接している足の裏こそ尊いと思える生き方への気づきが、ここにあった。

つい教えようとする教師こそ、見えないところで人の嫌がることのできるようになりたい。鍵山掃除道は、そんなことに気づかせてくれるかけがえない学びである。

(602 8173 京都府京都市上京区金馬場町163)

イエローハットでの掃除実践

北海道

藤田

康洋



イエローハットでの12年3か月、鍵山相談役のお側で学ばせていただいた社員として、数限りなくある感動やエピソードの一端を述べさせていただきます。

2001年、本社が北千束から中目黒に移転した際のことです。店舗も併設のため、騒音など

を心配して近隣住民による反対運動が起きました。移転後すぐに、相談役を筆頭に毎朝数十人で街頭清掃が始まりました。最初は散歩中の住民が、げんな顔で我々を眺めていました。

半年くらい過ぎると、「本当に良い会社に来てくれてうれしいです」と、挨拶やお礼の言葉を聞くようになりました。親しくなったワンちゃんも相談役を見つけて駆け寄ってきました。

大通りで、バスが通り過ぎて、私たちが集めたゴミが飛ばされましたが、その後運転手さんは車を止め、ゴミをチリトリに入れるのを待ってくれるようになりました。街並みも整然としてきて、「氣」が変わるのがよくわかりました。

相談役は、掃除研修で来られた方に対しては、相手がだれであっても、ここまでするのかというくらい丁寧に対応され、サポート役の私たちは感嘆するばかりでした。

私も、小さな事も見逃さない(ひとつひとつ丁寧に)、誰に対しても公平に(特に弱者に優しく)、言行一致(約束は必ず守る)、傲慢さをなくし謙虚に生きるなどについて、実践第一で学びました。

PHPの方から「鍵山哲学は、松下幸之助の遺志実現の近道」と教わりました。相談役に薫陶を受けた者として、「鍵山哲学」を次の世代に引き継ぐことが使命であると肝に銘じております。

(063 0827 北海道札幌市西区発寒7条11丁目5-45 106)

無目的の掃除

兵庫県

おおたに
大谷

いくひろ
育弘

■鍵山教師塾

鍵山秀三郎先生から生き方を学ぶという趣旨で、2014年鍵山教師塾が始まった。会場である靖國の桜は満開であった。全国各地から集った教師に向けて鍵山先生からのメッセージが心の奥に突き刺さった。

「教育とは教化ではなく、感化である」「人を感化する力は、自分がいかに犠牲を払ったか、その質と量に比例する」。本来教師というものは、自己練習よりも教えることが得意である。教えることの方が楽である。鍵山先生は全てを見抜き警鐘を鳴らされたのである。以後、この言葉は私の心から離

れたことはない。

2019年、6度目の靖國桜も鮮やかだった。鍵山先生は体調が思わしくない中ご無理をされてお越しくださった。そのお姿こそが百万の言葉より物語っている。これこそが感化力である。では、なぜそこまでされるのか？何が動けない体を突き動かしているのか？

それは国を、今の世相を、憂いておられるからである。それを立て直すのは教育しかない信じ、我々教師に託されているからである。しかしながら、我々にそこまでの想いと自覚があるのだろうか。改めて教えることよりも自己練習の重要性を痛感した。

■陰徳

私が自己練習としての掃除から学んだことは、無目的の掃除である。結果成果見返りを求めず、ただ掃除に没頭することである。善行は、常に隠さ

なくてはならない。むしろ、隠されることよって善行は完成する。しかしながら、教育現場ではすぐに目的を示し、結果を導き出す方法論を教えようとする。ある意味において熱心に掃除をしている教師が陥りやすい最初の落とし穴である。力点は善行を促すことよりも、それを隠すことにある。

■無の境地

「無になるとは、捨て去る修行。何かを学んで得るのではなく、ひたすら捨ててゆく修行」「答えをつかんだ瞬間に、もうそれは答えでなくなる。求め続けることである」 禅の教えである。教育するという想いすら捨て、目的を捨て、何ものにも捉われず、執着せず、ただひたすら目の前に没頭する。これが真の掃除道(自己練習)ではないか。これからも掃除を通して道を求め続けたい。

掃除に出会えたからこそ

兵庫県

石塚

裕司



2014年2月、生徒が荒れ、職員間の意思疎通がはかれず、思いつめていたとき、大阪便教会に出会った。黒ずんだ小便器に手を突っ込むとき、恐怖を感じた。本物の「掃除」を知った。やり切ったあと、これまで味わったこ

とのない感覚になり、ここからすべてが変わった。

2016年1月、鍵山教師塾に参加した。伊勢という神聖な地、そこに集まる方々、禊、作法、挨拶：すべてが一気に体に入り、雷に打たれたような感覚になった。「今、ここ、自分」という座標点で掃除をすることが、いかに理に適っているか腑に落ちた。

汚れが問題なのではなく、汚れに向き合う自分に問題がある。問題を対象として受け止める。誰にでもできることを、与えられた時間、場所でやる、方法は無限だと発見した。これは全てのことと言える。

「相談役の方法はすべて素晴らしい」ではなく、やってみて、自分で考えなければ意味がない。

鍵山掃除を否定するのではないが、鍵山掃除というフィルターを通してこそ、自分の気づきが生まれるのではないか。

だから、「今、ここ」でできることに精一杯努め、「逃げていないか」と問い続けなければならないと思った。今まで自信がなくて、資格や免許、研修、モノ、やり方、肩書など、足していくことばかり考えていた。そうすれば、自分を認めてもらえるし、正しいと信じてきた。元々自分に授かったものを磨き切ることだけでよかったのだ。現在、中学校の校長を務めている。今生かされていることに感謝し、そのもの自体を光らせるための「ひたすら」を続けていきたい。

(654 05)兵庫県神戸市須磨区北落合4-47-4

掃除との出会いと 掃除への思い

岐阜県

加藤

景司



座右の銘「良樹根」（神渡良平先生書）

1991年恵那のハガキ祭り
で、鍵山秀三郎相談役とお会い
しました。お話は説得力と温かみが
あり、心にしみわたりました。
大変なご苦労をされてきたの
に、それがお顔に出ず、いつもお

優しい笑顔で、目線は誰に対して
も変わらず、親しみを覚える仏様の
ような印象を受けました。

田中義人さんに誘われ、ローヤ
ルの掃除研修に参加しました。相
談役は、社員さんと地域のごみの
収集と分別をされていました。間
近で見て、「ここまでやるの？」と
感動を覚えました。

最初は「人のごみをかまうな」
と抗議もあったそうですが、地域
の方の理解も深まり、感謝される
ようになったそうです。周辺住民
の方との温かい挨拶のやり取り
が思い出されます。

私は、掃除の素晴らしさと掃
除の持つ力に感動しました。翌
日から会社のトイレ掃除を始め、
1993年の大正村での第一回掃
除に学ぶ会に参加し、以来今日ま

で掃除を続けています。

私は、掃除を続けることでさ
まざまな困難・苦勞を乗り越え
られました。掃除は、会社経営の
根っこ作りに欠かせません。

場をきれいにし環境を整える
と、人の心を穏やかにします。そ
して社風をよくし、仕事の創意工
夫や改善力をつけ、人やモノを大
切にする心を育みます。

おかげさまで、今年創業134
年を迎えました。社員と続ける毎
週の地域清掃を通じて、地域の皆
さんやお客様への信用をいただけ
るようになりました。

私は鍵山相談役の『凡事徹底』
を、何度も読み返しています。掃
除は、私の人生にとって欠かせな
い実践であり、考え方の基礎であ
り、生きる力を与えてくれます。

少しずつでも小さなことでも

京都府

音川 おとかわ
誠一郎 せいいちろう

鍵山秀三郎先生で最も大きな
衝撃の最初は、2014年2月の
京都マラソン。全国的な大雪に見
舞われ、交通機関もストップする
中、鍵山先生は、東京から長靴で
京都まで来られ、応援大使の島
袋努さんを、いつもと変わりなく
激励されました。その日たまたま
宿泊した旅館は、偶然にも鍵山
先生が幼少の頃修学旅行で宿泊
された旅館でした。

掃除との出会いは、教諭とし
て教壇に立って行き詰まりを感
じていた2005年、30代のころ
です。統廃合する学校に勤務し、

どうしたらよいか分からず、すが
る思いでした。そこから教室整備
やすさみ除去、ひとつ拾えばなど
を継続してきて、目の前の生徒の
変化を見てそんな気になってい
ました。

しかし、学校ではない職場に異
動し、目の前に生徒がいなくなる
と、ひとつ拾ったことが変化とし
て見えなくなり、もどかしさを感じ
ていました。達成感や見返りを
求めていたのだと思います。今も
そうかもしれない。確かに、掃
除やゴミを拾うこと、整えること
は「気持ちのいいこと」ではあり
ます。しかし、どこか「格好付け」
だった気がします。

今、学校という職場に戻り、し
かし、教壇ではなく教頭として学
校にいます、事務の方や技術職

員の方が、どれだけ丁寧に教育
環境を整えようとしておられる
かに気付きます。「無私」の感じが
します。

今は、周りに気付かれないよ
うに小さなことを続けようと
思っています。そう思って周りを
見ると、「わたくしごと」を後にし
て、周囲を第一にされている方の
存在に気付きます。そしてまた、
その「気付いた!」と思った自分
のしたり顔に赤面します。その繰
り返しです。

大雪の中来られた鍵山先生を
思い出すと、今更ながら、その
「平常」さの中に、あたたかい穏や
かさ、強さ厳しさを包む
感じを感じます。少しづつ続け
ようと思います。